

中退問題からみた学校適応 —一定時制中退者と定時制卒業生へのインタビュー—

渡邊 仁（北海道大学）

キーワード：学校適応，中途退学，定時制高校

問題と目的

高校は小中学校にはない中退問題を抱えており、今までの研究から中退要因として学校不適応や学業成績が挙げられている（片山，2008）。しかし教育現場では「学校は楽しくないが進学や就職のために卒業する生徒」や「学校は楽しいが高校を卒業する意義を見い出せずに中退する生徒」も同時にいることが考えられる。

そこで、本研究では学校不適応となる生徒が多い非進学校で、その中でも中退率が高い定時制（文部科学省，2016）を卒業・中退した者を対象にインタビュー調査を実施する。それにより学校へ適応または中退を選択した者の背景には何があったのかを明らかにし、社会的背景の観点から高校における学校適応を検討することが目的である。

方 法

調査協力者は、定時制を卒業した A，B，定時制を中退した C，D である。調査時期は、2016 年 8 月から 2020 年 4 月の間で、調査時はそれぞれ仕事をしていた。年齢毎に生活全般に対してポジティブなイメージがあったのか、ネガティブなイメージがあったのかをグラフに表してもらい、それを基に半構造化面接を実施した。

結果と考察

生まれてから定時制を離れた後までの生活について 4 名の者にインタビューを実施した結果、4 名それぞれの背景の中で、共通点と相違点が明ら

かとなった（Table 1）。共通点に関しては、経済的に厳しい家庭であるということと、教師との関係が良好であるという点が定時制の特徴として表れていた（川村，2014）。一方、相違点は、卒業した 2 名の交友関係は向学校傾向が強く、成績不振になったことがないのに対し、中退した 2 名の交友関係は反学校傾向が強く、教師のサポートを受けながら成績不振を解消していたことであった。その他、中退者の傾向に先行研究で示唆されている学校不適応の徴候が顕著にあるわけではなく、教師のサポートが多くあった分、一部の教師を除いて関係は良好であった。

D が「職場には、高卒じゃなくても結婚して子どももいて幸せにやってる人がたくさんいるから、私もわざわざ（学校を）頑張る必要もないかなって」「（定時制を中退した）彼氏も、もしおまえが大変だったら、俺は（中退を）止めないよって言ってるし」と話していることから、周りの環境が中退を促進させていると考えられる。一方、A は「周り（クラスメート）はたくさん中退してたけど、私は高校を中退するっていう選択肢はなかったなあ」と話していることから、A のクラスには中退を選択する人が多くいたが、A は中退するクラスメートとは一線を引いていることがわかる。

以上のことから、学校適応を検討する際には生徒の背景も重要であることが考えられる。しかし、この結果を一般化するには調査数が少ないため、今後も調査数を増やしていくことが必要である。

Table 1 対象者の背景

仮名	性別	家庭環境		交友関係			学校			
		経済状況	学校意識	学校内友人	学校外友人	仕事同僚	居心地感	成績	教師関係	卒業中退
A	女	低い	向学校	少ない向学校	少ない向学校	なし	中	概ね良好	良好	卒業
B	女	低い	向学校	少ない向学校	少ない向学校	なし	中	良好	良好	卒業
C	女	低い	非学校	少ない反学校	多い反学校	なし	良い	低い	概ね良好	中退 2年生時
D	女	低い	向学校	少ない反学校	なし	多い反学校	中	低い	概ね良好	中退 2年生時